

出典：国土数値情報及び基盤地図情報
(国土地理院)各種データを加工
東京都通称道路名地図(東京都建設局)

区内の復興小公園は7か所全てが現在も供用している。
ほとんどの復興小公園において改修や老朽化施設の更新を重ねてきているが、広場を中心に周囲に日陰棚と遊具コーナーを分けるゾーニングと周囲に植栽を配する基本的な施設配置は多くの公園で共通して継承されている。

特に、元加賀公園は開設当初のゾーニングが保たれており、また開設当初の壁泉が現存している。川南公園では、開設当時につくられたと思われるコンクリート製の二連すべり台が現存しており、この種のすべり台が現存しているのは元町公園と本園の2基であるが、本園のものは、2つのレリーフが施されており、デザイン性が高い施設となっている。

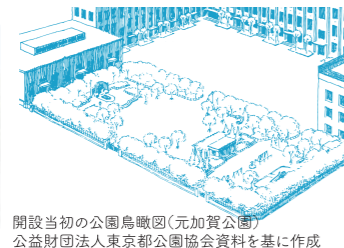
広場の周囲の高木は十分な植栽間隔を保ち、ケヤキなどの美しい樹形が表れ、日陰棚と合わせて快適な緑陰空間を形成している公園が多い。また、八名川公園と森下公園では、在来種を材料にした植栽による生物多様性に配慮した緑化が行われている。また、多くの公園では、隣接する校庭との一体利用が考慮されている。

近年の改修では、かまどベンチ・スツールの設置のほか、関東大震災と復興小公園の歴史解説板の設置が進められており、震災の教訓を伝える場としての防災機能の充実が図られている。



1 元加賀公園

中央に日陰棚・休憩舎、東側に遊戯広場、西側に広場を配するゾーニングは、開設当初と大きく変わらずに現在に至っている。広場の西端部には開設当初からの壁泉が残っている。隣接する元加賀小学校の校庭とは門扉を介して結ばれている。
● 2,975 m² ● 1927年開設 ● 白河 4-3-27



開設当初の公園鳥瞰図(元加賀公園)
公益財団法人東京都公園協会資料を基に作成



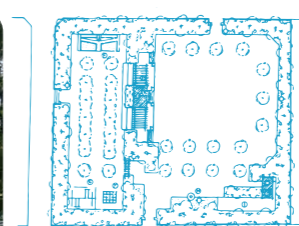
2 八名川公園

日陰棚、複合遊具があり、イチョウやケヤキなどの大木が緑陰を形成している。隣接する八名川小学校とは門扉を介して結ばれ、学校の休み時間には児童が公園で遊んで賑わいを見せている。
● 2,973 m² ● 1930年開設 ● 新大橋 3-1-18



3 東陽公園

中央にあるコンクリート製の大型すべり台が特徴的で多くのこどもで賑わう。花壇の花々が豊富で色どりの花が利用者を楽しませている。隣接する東陽小学校とは門扉を介して結ばれている。
● 3,039 m² ● 1927年開設 ● 東陽 3-27-27

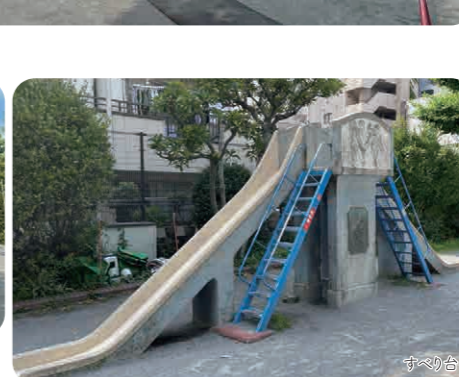


開設当初の公園平面図(森下公園)
公益財団法人東京都公園協会資料を基に作成



4 森下公園

中央に日陰棚、東側に広場、西側に遊戯広場を配するゾーニングと公園の出入口の位置は、開設当初と大きく変わらずに現在に至っている。近年の改修により、遊戯広場にタコをモチーフにしたすべり台がある。
● 2,976 m² ● 1930年開設 ● 森下 2-5-16



5 川南公園

イチョウやケヤキの大木が外周に植わり、園内は広場と遊戯広場に分離、その部分にかつてあった日陰棚の床部分が暗示的に残されている。また、開設当時につくられたと思われる二連すべり台は、2つのレリーフが施された特色のあるもので他では見られない。隣接する川南小学校とは門扉を介して結ばれている。
● 2,975 m² ● 1931年開設 ● 千石 2-9-22



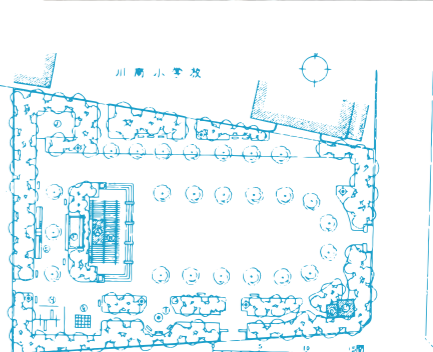
6 臨海公園

イチョウ、ミカン類の大木があり、築山による高低差を活かしたアスレチック系の遊具が特色。隣接する臨海小学校の校庭とはフェンスにより仕切られるが、校庭開放により相互利用が図られている。
● 2,643 m² ● 1930年開設 ● 門前仲町 1-1-1



7 扇橋公園

中央にコンクリート製の大型すべり台がある。幼児用のすべり台、砂場、日陰棚が設置されている。隣接する扇橋小学校とは門扉を介して結ばれており、小学校と公園の相互利用が図られている。
● 2,975 m² ● 1930年開設 ● 石島 18-23



開設当初の公園平面図(川南公園)
公益財団法人東京都公園協会資料を基に作成

小学校との位置関係	I 校庭に隣接	II 校舎に隣接	III 道路が介在	IV その他	
公園内の施設	1 遊具	2 健康遊具	3 休憩舎	4 トイレ	5 広場
	6 スポーツ場	7 壁泉	8 池流れ・噴水	9 じゃぶじゃぶ池	10 ミスト
	11 ピオトープ	12 モノUMENT・オブジェ	13 防災トイレ	14 かまどベンチ等	
	15 井	16 防災井戸	17 照	18 ソーラー照明灯	19 他
					その他の防災施設